



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.169
2017.12.10

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島逞壯
 TEL(053)463-0458
 FAX(053)463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

第4回ユネスコ科学教室 「富士山の自然」

7月1日(土)

富士山で学んだ 厳しさ 美しさ 恵み



白糸の滝 5号車の皆さん

教室生100名と保護者90名、スタッフ20名の総勢210名が、富士山宝永火口と白糸の滝で、富士山の自然について学んだり体感したりしました。

富士山から流れ出る河川はありません。富士山に降った雨や雪は地下へと染み込みます。火山灰や溶岩などで何層にも重なって成長した富士山。その地層の間を何十年も掛けて地中を流れた水が白糸の滝で再び姿を表します。輝きながら流れる水は、富士山からの大きな恵みです。

参加者の感想より

白糸の滝に近づくと、ものすごい音が聞こえてきました。そして、滝を見るとあちらこちらから水が出ていて、本当に白糸のようでした。階段を下りて滝に近づくと水がすごくきれいでした。滝のしぶきはミストになってこっちにきました。とても気持ちよかったです。

(初生小5年 田島智之)

白糸の滝で娘が「この水は私が生まれ前の水だね。」と言っていました。水は自然に移動して来るわけですが、それを人の尺度で捉えるところなるのです。考えたこともない視点でした。

(初生小保護者 山脇)

早朝、5時20分、バス5台に分乗して浜松を出発しました。車中では、富士山の成り立ち・噴火の歴史・岩石・動植物・気圧・伏流水などの学習を進めました。大井川通過時には大井川で採取した堆積岩である頁岩が配布され、富士山の岩石との違いについても学びました。

休憩地の水ヶ塚（標高1400m）は、霧に覆われ白い世界が広がっていました。新5合目（標高2400m）は、霧と雨、そして強風でした。新6合目付近では視界が悪いため、安全を考えて引き返すことも検討しましたが、霧の中に青い空が薄っすら



ら見えて風も弱まったため、宝永火口まで進みました。時折、吹き付ける強い風。カラマツが本来の姿に生長できず、地を這うような形をしているのも理解できます。

吹き上げてくる風に乗って大きな雲が近づき、あっという間に周りが真っ白になってしまいます。（阿部行俊）

参加者の感想より

私は、今日、富士山の自然でびっくりしたことがたくさんありました。一つ目は富士山の色が黒いことです。富士山の絵はほとんど青です。私は青だと思っていませんでしたが、黒とも思っていませんでした。二つ目は富士山が4つの山でできていることです。三つ目は宝永火口がとても大きいことです。父から「宝永火口は大きい」と聞いていたのですが、想像以上に大きかったのでびっくりしました。四つ目はスコリアの軽さです。資料でスコリアは穴があいていると知ったのですが、石なのにとっても軽くてびっくりでした。五つ目は富士山に雨が降って、地下を通して白糸の滝まで十数年もかかることです。こんなにかかるとは思っていませんでした。その他にマタタビ、沸騰実験、ふくらんだお菓子の袋…びっくりしたことがたくさんありました。〈中略〉



（富塚西小6年 間瀬里緒菜）

46歳にして初めて富士山に登りました。台風並みの強風に吹き飛ばされるんじゃないかと心配する私をよそに、我が息子は友達とズンズン進み、必死に彼の背中を追いかけました。足はガタガタでしたが、とても楽しかったです。何より子供が「超楽しい」と



と言っていた姿をうれしく思います。ユネスコ活動は、私達が教えてあげられないことだらけで、子供もワクワクが止まらないようでした。

知りたがりの息子は、スタッフの先生の近くにいれば何か面白いことが聞けると思い、気付くとスタッフの先生の側にいる姿が何度もありました。子供だった頃の私が先生の話をもてなされて聞いた頃のように…。そのころの思い出は、大人になった今も私の心にしっかり残っています。私も子供にかえれました。（南の星小保護者 安田）

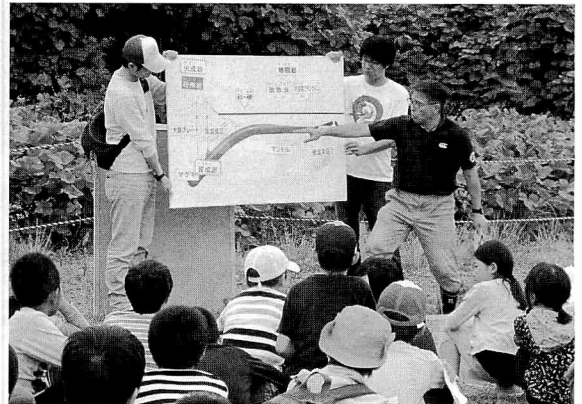
第5回ユネスコ科学教室 「天竜川と岩石」

10月14日 (土)

天竜川の岩石に魅了 岩石標本 10種類

於：天竜川 西鹿島河川敷

子供たちは、見本から岩石の特徴をつかみます。そして、目を凝らして探します。しかし、年々見つけにくくなっている種類の岩石もあります。ダムや護岸工事などにより、岩石が西鹿島まで流れてなくなったことが原因の一つかもしれません。



採集させる10種類（2年目も合わせると20種類）をどの岩石にするか、子供たちの安全や岩石採集にふさわしい場所かなど、自然相手の活動のための苦労もありますが、スタッフが話し合いながら毎年の活動を進めています。

今年は、いつ雨が降り出してもいいように準備を整えた上での活動でした。子供たちのがんばりで、昼食前には全員が標本を完成させることができました。
(竹内孝夫)

第6回ユネスコ科学教室 「秋の自然観察」


11月3日 (金)

～ 木の実は命のつながり (ドングリを知る) ～

於：佐鳴湖公園

佐鳴湖湖畔で、子供たちに8種類のドングリを入れるビニル袋と解説カードが渡されました。そして、拾ったドングリの種類を見分けたり、色付いた植物の葉を観察したりしながら公園上の遊戯広場へ向かいました。

歩いていると、敷き詰められたドングリに気がきます。中でも磨けばピカピカに光るシリブカガシは人気があります。南国の暑さに適応し、蒸散を抑えるため2年間をかけて、皮が密になっていくドングリ故の輝きです。

貴重な自然を
次の世代に残しましょう。
山本和子

印刷のエキスパート
株式会社開明堂
TEL (053) 471-6231 (代) FAX 473-0778



家族や学校の友達のために持ち帰る子もたくさんいました。発芽しているコナラの木の实から、ドングリはその種をつなぐ大切な命であることも学びました。

佐鳴湖公園に訪れる度、新たな自然に触れることができるのが不思議です。その多くは、教室生の子どもたちが「〇〇があった。」「これは何ですか?」と見つけてくれるのです。（加藤泰弘）

「2017年度 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 厚木」

（〈大会テーマ〉「Action」～今日から私たちにできること～）

2017.9/2～3 厚木市レンブラントホテル

浜松ユネスコ協会がSCIENCEの視点で事例発表

安藤隆敏副会長が浜松ユネスコ協会の活動について、「人の心の中に平和のとりでを築く」のアプローチとして、自然・文化・歴史をSCIENCEの視点で発表しました。

私たちの実践を端的にまとめ、他のユ協に自信をもって報告することができました。また、私たちもこれまでを振り返ることができる良い機会となりました。



浜松ユネスコ協会 「人の心の中に平和のとりでを築く」発表要旨

1 自然・文化・歴史をSCIENCEの視点で私たちが実践してきた活動

(1) ユネスコ科学教室（学校委員会）

- ・ 1958年 静岡大学工学部で中学生を対象に始まる。
- ・ 1987年 一時休止期間を経て、小学校5・6年生を対象に再開。（今年31年目）
- ・ 毎年約120名の教室生が年間9講座を行う。

(2) 親子公園探検隊（自然環境委員会）

- ・ 幼児、児童とその親を対象に行う自然観察会。
- ・ 毎回100～150名が参加して、年間4回開催する。講師は研修をした協会員が担当。

(3) 浜松ユネスコ山本自然科学賞（山本自然科学賞選考委員会）

- ・ 会員夫妻の寄付金で設立され、理科自由研究に対して研究費を助成するもの。
- ・ 18回実施し、正賞授賞は46点、奨励賞授賞は39点。

(4) 私のまちのたからもの展 (地域・世界・未来遺産委員会)

- ・浜松市内153の小・中学校、湖西市内11の小・中学校対象 (小は4年生以上) に募集する。
- ・毎年約1000点前後から特別賞28点、佳作50点、入選120点ほど選考する。
- ・遠鉄百貨店のギャラリーで作品展示、ホールにて表彰式を行う。

2 活動の喜びと問題点

○回を重ねるごとに反響があり、P・D・C・Aで充実感を味わっている。

○教員としての自己研修の機会となり、職務能力や自尊心形成につながっている。

(会員の34%が教員もしくはそのOB)

▲「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」と市の組織とが不一致

▲設立当初とは違い、運営資金や会員の確保などユネスコの趣旨が市の中枢部に広がらない。
(加藤泰弘)

基調講演 「ユネスコの理念と現代社会の課題」

～ 必要性がますます高まる ユネスコの理念 ～

講師：日本ユネスコ協会連盟 副理事長 鈴木佑司 氏

第二次世界大戦の再来を防ぎ、平和を維持させる目的で設立されたユネスコは、教育と科学・文化を通して人々の心の中に平和の条件を求めるという特徴を持っています。「心の中に平和の砦」であります。

しかし、1945年から今日までに200を超える戦争を経験し、民族間、宗教間紛争を含めると数百万以上の犠牲者がいます。加えて、ここ数年ほどは、国際協調や国家間の信頼醸成を軽視するような「内向きのナショナリズム」を鼓舞する政治が跋扈（ばっこ）しています。

イデオロギー対立の東西冷戦、発展格差に由来する南北対立、自国第一主義のナショナリズムの台頭がありながら、ユネスコは様々な危機を乗り越えてきました。国家が戦争を決め、国民が戦う。反すれば、国民は「非国民」となり恐怖します。

少子高齢化の進む日本の青年たちの海外留学者数が減少しています。自国第一主義のナショナリズムや反グローバリズムに陥っているのではないかと危惧します。戦争がない状態（消極的平和）と戦争を必要としない状態（積極的平和）とは違います。

こうした人々の心に平和を脅かす思想や運動が忍び寄っている現在、ユネスコの理念を掲げ、広げる必要はますます高まっています。〈要旨抜粋〉



SDSN JAPANより



(出席者 左から 大石・安藤・小島・加藤・服部・三輪)

にれとうほう
楡陶房
|||||
浜松市南区瓜内町860-1
TEL 080-3069-0240

内科・消化器科
西脇医院 院長 西脇雅子
中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

親子公園探検隊 夏の自然観察会 in 浜松城公園 神秘さや不思議さに目を見はる感性

浜松城公園 7月29日(土)

アオスジアゲハの卵を見つけた子供と母親との会話です。「ちっちゃーい。かわいい。」「すごくきれい。真珠みたいだね。」「この卵、育てたい。」

こんな親子の様子に、環境問題を告発したアメリカの生物学者、レイチェル・カーソンが著した「センス・オブ・ワンダー」の一節を思い浮かべました。

「私たちの多くは大人になる前に澄み切った洞察力や、美しい物、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。(中略) 世界中の子どもに、生涯消えることのない『センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性』を授けてほしいと頼むでしょう。」という文章である。

子供がもつ好奇心を少し刺激してあげるだけで、いろいろな感性が飛び出してきます。しかし、「物知り博士」が多いとも感じます。何かにつけて、「知っている。」と言うけれども、本物を知っているのかというと案外知りません。テレビやインターネットを通じて「知っている」つもりになっているのでしょうか。

自然が好きな親の子供の多くは、自然が好きになります。子供は、大好きな母親にきれいだと思った花や虫、石などを見せたくになります。その時「わあ、うれしい。瓶に飾ろうね。」「飼ったらおもしろそうね。」と笑顔で応えるか、「こんな汚い物を持ち込まないで。」と叱るかでは、子供の自然への興味は別の方向に向いてしまうでしょう。

ユネスコの親子公園探検隊は、「自然のおもしろさを教えてあげたくても…」という保護者の一助になればうれしく思います。
(藤野ひろ美)



生涯学習セミナー 自分づくり講座『自分らしさとは』

8月23日(水) 於:仙林寺(浜松市中区野口町)

講師 曹洞宗仙林寺住職 杉山晴康(せいこう)氏



夏の暑い一日、第3回目の生涯学習セミナー『自分づくり講座』が行われました。

まず、般若心経を和尚さんと共に全員で声に出して読みました。「全員で読むことが般若心経につながっている。そのことで参加者の気持ちが一つになっているように感じます。」という話がありました。続いて、御焼香をしました。香を焚くことは、その場を清め一番の供養です。焼香回数は宗派によって異なり、曹洞宗は2回です。

次に座禅の手足の組み方、視線の位置、姿勢等を学んだ後、20分間の座禅を行いました。静かな環境に身を置き、忙しい時間から解き放された中で、周囲の音が遠くから聞こえてきました。オートバイの音、自然の音など、普段の生活の中ではあまり気付かない音を静かに迎えることができました。

続いて食事です。「いただきます」は、動物の命・野菜の命などをいただくことです。「ごちそうさま」は、おもてなしのために一生懸命に走り回って食事を用意されることへの感謝を表しているという意味を教わりました。

午後は、宮澤賢治の「雨ニモ負ケズ」の視写をしました。詩の内容を確認した後、小学生から年配の方までが集中して視写をすることができました。

参加者からは、次のような感想が寄せられました。

「いろいろと学ぶことができました。御堂の風が爽やかで心身ともにリフレッシュされる一日でした。」

「座禅が良かった。貴重な体験ができました。」
「今日の体験を通して自分のことを考えるきっかけになりました。」

「坐禅を組んだり視写をしたりと落ち着いて自分を見つめ直す時間がとれ、自分を振り返ることができました。充実した一日でした。」 (岡田義生)



自然環境委員会 自主研修会 in 伊豆半島

～ 南から来た火山の贈り物～

9月16日(土)

伊豆半島は、大地の成り立ちからすると特異な場所です。そのため、フィリピン海プレートによる「南から来た火山の贈り物」と呼ばれています。そこで2000万年という時間の流れを見てきました。

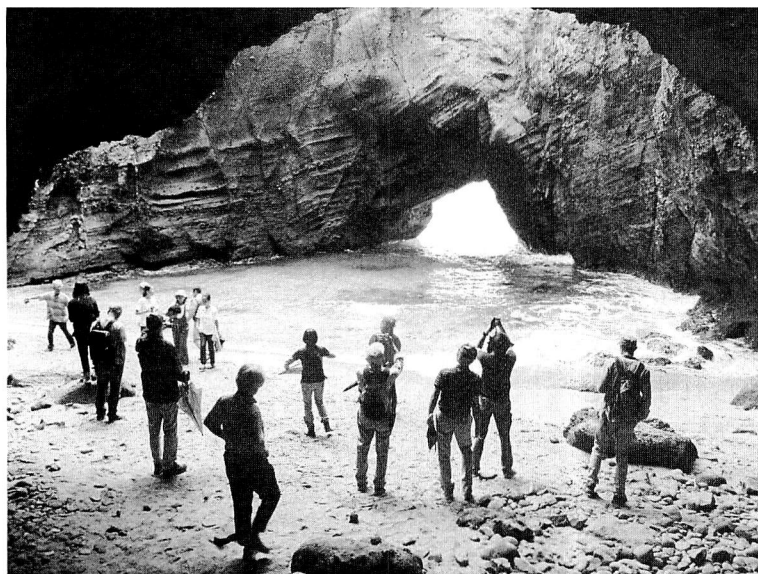


①白鳥山の安山岩

伊豆半島が海底にあった頃（2000万年前）、火山の真下で冷えて固まったマグマが浸食によって削り出された、地形的に突き出たもので「火山の根」と呼ばれています。隆起によって姿を現した柱状節理でできた巨大な岸壁は迫力満点です。<※立ち入り許可をいただきました。>

②皮子平（かわごだいら）の黒曜石

皮子平火山は約3200年前、伊豆東部火山群の噴火史上、初めて流紋岩質マグマが噴出し



ました。巨大噴火によって出来た火口跡は、苔むした溶岩、ブナの巨木、ヒメシャラなどが繁る深い森となり、神秘的な雰囲気醸し出しています。

③竜宮窟

伊豆と本州の衝突により、数百万年前の海底火山の噴出物（火山れき）が地表に姿を現しました。そして、地表に姿を現した地層には波が打ちつけ、地層の弱い部分が削られて洞窟(海食洞)ができました。やがて、洞窟の拡大にともない、天井の一部が崩れ、この大きな天窓ができたのです。

④室岩洞（むろいわどう）の凝灰岩

1000万～200万年前、半島が海底火山であった時代に海底に降り積もった火山灰は長い年月を経て凝灰岩へと変化しました。「伊豆石」と呼ばれ、江戸城の石垣に使われるなど重宝されました。天竜川筋でも「伊豆石の蔵」として残っています。室岩洞はその「伊豆石」を切り出していた石切り場（石丁場）の跡であり、昭和初期まで活用されていました。

(安藤隆敏)

あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数（17.10.3現在）

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	44
普通	学生	合計	
43	0	123	



※再生紙を使用しています。